

# 先進技術の活用探る

## 道ICT-IoT 3課題を検討・調査 懇親会・初会合

大学や民間企業、行政(術)／IoT(モノ)のイ  
などで構成する北海道農  
業ICT(情報通信技  
2日、札幌市で初会合を



あいさつする野口教授(2日、札幌市で)

開き、同会での検討項目  
やスケジュールなどを確  
認した。今年度は農地で  
の高速ネットワーク通信  
網の整備や、ロボット農  
業、生産性向上に向けた  
データの活用をテーマ  
にそれぞれ三つの作業班  
を設置し、課題整理や推  
進方策の検討を進める。  
先進技術による農作業の  
省力・効率化を進め、強  
い北海道農業の実現を目  
指す。

懇親会は、北海道大学  
農学研究院の野口伸教授  
を座長に、道内外の民間  
企業や市町村、大学、ホ  
クレンなどの関係者33人  
で構成する。道農業が直  
面する高齢化や労働力不  
足などに対し、ロボット  
技術やICT、IoTな  
どで対応するため、こう

した先進技術の導入課題  
の調査や推進方法を検討  
する。

同日は構成員らが参加  
し、検討体制などを確認  
した。作業班を三つに分  
けて調査を進める。

農業ブロードバンド整  
備推進作業班は、農業用  
の高速ネットワーク通信  
網を整備するための調査  
を実施する。例えば、ロ  
ボットトラクターをカメ  
ラで遠隔監視しながら制  
御する場合、リアルタイ  
ムの映像情報を通信する  
必要がある。整備推進に  
向けて検討を進める。

農業のロボット化検討  
作業班では、遠隔監視し  
ながらロボットトラクタ  
ーで作業するシステム

や、複数台のロボットト  
ラクターを監視しながら  
作業する技術の導入を見  
据える。高精度で安全に  
農作業するために専門知  
識や情報を調べる。

農業ビッグデータ活用  
用検討作業班は、過去の

栽培データや気象情報、  
生育情報、環境情報など  
あらゆるデータを集約・  
解析して営農に生かす技  
術を調査する。

今後は各作業班で調査  
を進め、10月に開く2回  
目の会合で意見を聴取

し、来年2月に推進方策  
を決める予定だ。

野口教授は「会は次世  
代の道農業を支える基盤  
になる。意見交換を進  
め、強い北海道農業をつ  
くっていきたい」と話し  
た。